



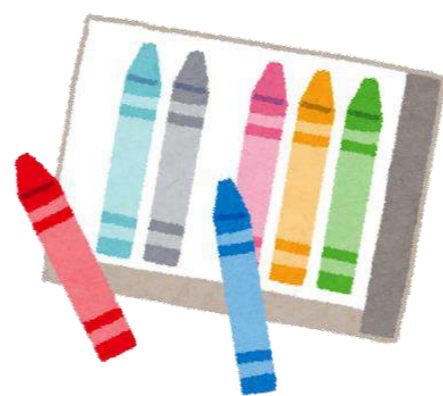
カスタネット通信2月号にも書きましたが、おぎはら耳鼻咽喉科には『ことばの遅れ』を主訴に受診されるお子さんもたくさんいらっしゃいます。今月はそのようなお子さんがいらしたとき、言語聴覚士(ST)は何を評価しているか、言語指導のときにはどのような教材を用いているか、ご紹介したいと思います。

ことばの評価

お子さんと初めてお会いするときにSTがチェックするのは、①その時のお子さんのことばの発達の状態と、②ことばの発達の遅れに影響を与えていると考えられる要因です。

① ことばの発達の状態

“ことばの発達が遅い”といっても、ことばの表出だけが遅い(周りの人が言っていることは理解しているが、しゃべらない)、ことばの理解も遅い(周りの人が言っていることの意味が理解できない)、しゃべってはいるが文にならない、内容が乏しいなど色々な状態があります。お子さんによっては初めての人、慣れない場所が苦手で、泣いてしまったり、いつものようにお話しできないこともあると思います。そのため、ご家庭での様子を問診票に書いていただいたり、ご家族にお話をうかがったりします。また、待合室でご家族とお話ししている様子を遠くから観察する、ということもあります。言語聴覚士室ではパズルやおままごとセットなどのおもちゃ、カードなどを用いてことばの理解・表出の発達段階を探ります。

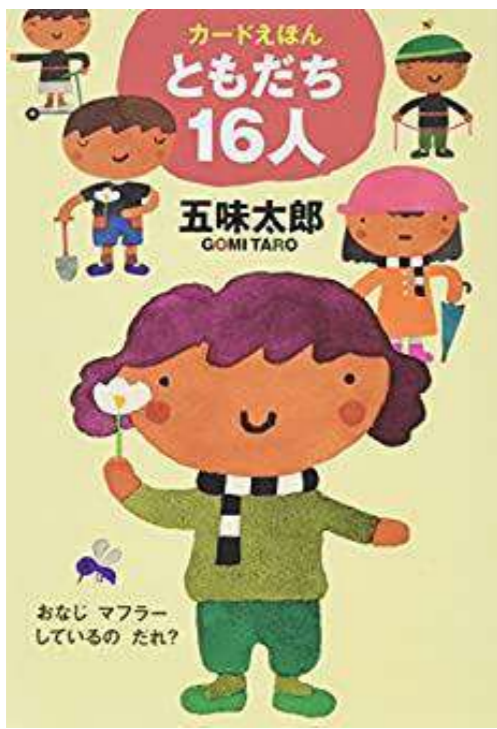


② ことばの発達に影響するもの

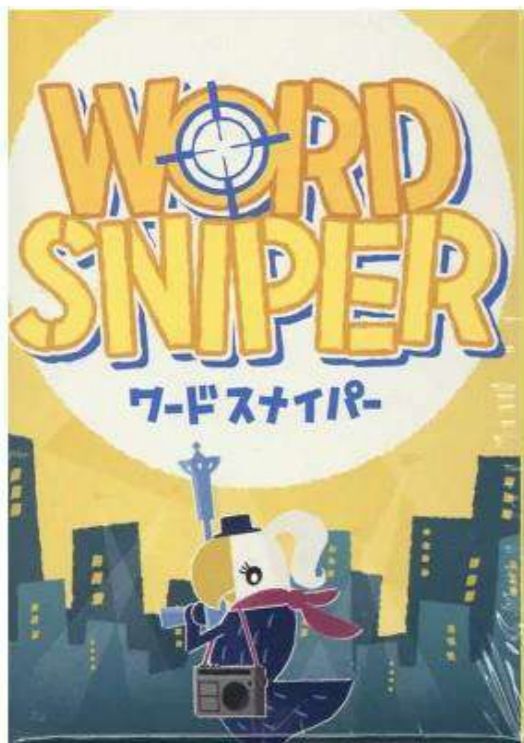
まず調べるのは「聞こえ」です。聞こえが悪ければ、家族や周りの人の話からことばを覚えることが難しくなります。そのため子ども用の聴力検査を行い、聞こえの状態を調べます。その他、ことばの発達の評価をしながら知的な発達、課題への集中持続、保護者やSTなど他者への興味や関わり方なども観察します。このような評価を通し、ことばの練習をした方が良いのか。まだ様子を見ていて良いのか、療育などを利用し、ことばだけでなく運動面など、全体的な発達も促した方が良いのかなどを判断します。

教材あれこれ

ことばは日常生活で使うものなので、靴、ハサミ、コップなど身の回りにあるものは何でも教材として使えると考えます。全部実物を用意するのは難しいので、絵カードや木のパズルなど自分で作ることが多いのですが、市販のカードゲームなどもよく使います。いくつかご紹介します。



五味太郎さんの『ともだち16人』です。本来の遊び方は、ゲーム参加者にカードを配り「おなじ〇〇(靴下、帽子など)」のともだちカードを持っていたら場に出していき、手持ちのカードが無くなった人が勝ち、というゲームです。でもそれだけではもったいないので、着ているもの、持っているものを相手に説明し、どの子が当ててもらおう「おともだち当てっこゲーム」もしています。



表には「赤いもの」「四角いもの」などのお題、裏には「あ」「ま」などの文字が書かれています。「あ」がつく「赤いもの」は…「アサガオ」など答えるのですが、語頭音のしぼりがあると大人でも考えるのが結構難しいので、裏の文字はあまり使用しません。指導場面では、お題に当てはまるものを2~3個考える、どちらが早く答えられるか競争する、答えを文字で書く、挙げた語がどんなものか説明するなどの遊び方をしています。語彙の拡大、説明力をつけることに役立つのではないかと考えます。



Schau mal! Was ist anders? はドイツ語で、直訳すると「見てください! 何が違うのか?」という意味だそうです。表と裏に「水が出ている蛇口」と「水が止まっている蛇口」、「寝ている犬」と「起きている犬」など少しだけ違う絵が描いてあります。場にカードを並べ、相手が目をつぶっている間にカードをひっくり返し、どのカードが変わったか当ててもらおうというゲームです。指差しで当ててもらっただけではつまらないので、何がどう変わったか説明してもらおうようにします。

市販のものを購入する際は、パッケージをジーっと見て、どんな用途に使えるか、難易度を変えて色々な発達段階のお子さんに使えるか、といったことを考えて選びます。

今月号はことばの発達の評価と教材のお話でした。最近はSNSで手作り玩具の情報をたくさん得ることができます。お子さんたちが楽しみながらことばの練習ができる教材を用意していきたいと考えています。

10000人到達記念報告会 🍌🍎🍇🍓🍑🍌🍎🍇🍓🍑🍌🍎🍇🍓🍑🍌🍎🍇🍓🍑



5月に3年目がスタートしたオギジビですが、その少し前、3月に新規患者さんが10000人に到達しました。そこで、この2年間に振り返る報告会が行われました。ST部門からは、2年間にお会いした521人の方の年齢別主訴、月別の初診人数やのべ人数などを報告しました。また、これらのデータの振り返りから構音の誤りやことばの遅れ、聞こえにくさを主訴に受診された方々のお役に立つ知見も得られました。

また、2年分のデータをまとめ、今年は久しぶりに学会に演題を出す予定です。これについては秋頃のカスタネット通信でご報告します!